

◎第二十七回シニア講座

4月11日に山本修史さんを講師に迎えて、「現代に活かす古武術の体と頭の使い方」でした。

山本さんは、新陰流兵法、新陰流状術それに制合流抜刀術など広く古武術を極めた人です。

会場を多目的ホールにして、前半は座学、後半は実技の構成でした。

もともと武術は人を生かすのが目的になっており、「養気練胆整体研技」が大切とのこと。「ま



ず気を養い、胆を練って、体を整えてのちに技を研く」

後半は、参加者全員が実際に棒を手にして、その振り方などを指導してもらいました。

初めての实技付きの講座で、皆さん新鮮な体験を喜んでおりました。



◎第二十八回シニア講座

5月9日は「沖縄・八重山の民謡 ～島うむい・唄あすいび～」で、講師は吉井宏子さんでした。

東京出身の吉井さんは、一時期沖縄へ移住して当地の民謡を習ってきて、現在は関東で普及活動しています。

三線と笛に乗って、たっぷりと沖縄・八重山地方の民謡を披露してもらいました。二部で

は、参加者も加わって「えんどうの花」を歌うワークショップでした。皆さん初めての曲でし



たが、素晴らしい出来上がりでした。

独特の琉球リズムを堪能した、素晴らしい講座になりました。



◎第二十九回シニア講座

6月13日のシニア講座は、小売業で磨いた接客技術とその後のカウンセリングの経験を積み重ねてきた飯島秀敏さんを講師に招いて、「職業カウンセラーが教える聴くテクニック」でした。

営業もカウンセリングもお客様の話に傾聴するポイントは共通しているとのこと、ただし共感はあるけど同感はない中立な立場も必要だとか。

第二十九回シニア講座のご案内

テーマ：「職業カウンセラーが教える聴くテクニック」

- みなさん、人の話を聴いていますか？
- カメラのキタムラで長年培った接客技術
- 接客業とカウンセラー傾聴の共通点は？

- ◆ カメラの販売でたどり着いた究極の接客
- ◆ 接客とカウンセラーの話術
- ◆ 日常で使える傾聴テクニック

講師：飯島 秀敏さん
(職業カウンセラー、消費生活相談員)



なかなか人の話を聞くことは簡単ではないですが、現在のように人とのつながりが希薄になりがちな時代においては、良好な人間関係を築

く為には大切なことであることを痛感した講座でした。



◎賛助会員から一言

「人生 100 年時代を迎えて」 高口恵子（熊本）
今日もカメラを抱えて、あちこちに出掛けている。FB や Instagram を見ている人が呆れる程の行動らしい。月に 2000 キロの走行を今日はジープで明日はオープンカーでと、74 歳のカメラおばちゃんは元気だ 😊

終わりを決めない旅をするのが好きで、カメラを持って今年 2 月も島根から長野、そして神奈川へと 19 日の旅を楽しんできた。

人と出会う事、人と再会する事も、元気だからできる事。

薬も飲まない、病院のお世話にもならないで生きられる今を大切に楽しんでいきたいものです。



好きな事を進んで行動する。そしてちょっぴり人様の為になにかをする。そんな人生を楽しみながら今年も、秋の個展に向けてカメラおばちゃんは元気で頑張っています。

◎会員のページ

「シニア講座に参加して」 長谷川肇

私が当会に参加する様になってから、2 年強になりますが月一度の例会の回を重ねる度、さまざまなテーマに沿って講演をいただく講師の方々の探求心のおうせいな事と、積極的な生き方には毎回頭の下がる思いをしています。顧みて自分とは、徒に歳を重ねるのみで毎日をだらだら過ごす事に心許せないものを感じておりました。

そんな折、当会にて初めて接した俳句の面白さに引かれて、早速句会に入会させていただきました。

過去には、沖縄の民謡の話や、食品サンプルの製作やら、様々な経験や技術をお持ちの講師の方々の話を聞き、狭い視野が広がるのを実感しています。

皆様も是非足を運んでみませんか？何か新しい発見があるかもしれません。ご参加をお待ちしております。



「稲の蒸散」 （浅野英世）

私が中学二年の時に、母は 47 歳で逝きました。ですから、母との会話の内容は記憶に少ないのですが、今でも鮮明に覚えていることがあります。

多分小学高学年の頃だったのですが、子供たちが田んぼの仕事を手伝っていた時のことです。畦道で休憩していると母が「早朝に稲の葉を見ていると、不思議なことに水滴が根っこから葉先に向かって登っていき、てっぺんにピタッと止まるよ」というようなことを話してくれました。

既に理科で引力の話を知っていた私は、「重力に逆らうようなそんなことはありえないな」と心の中で思っていました。この話が長いこと心に引っかかっていたので、最近になってネットで調べてみたら、それは稲の葉の蒸散作用に関係していることが分かりました。他の植物と違って、稲科の葉は維管束という細い管が葉先まで伸び

ていて、根から吸い上げた水分がそれを通して葉先へ運ばれるので、水滴となって先に留まるのだそうです。水滴は夜露が溜まったものだからおかしいなと思っていたのですが、そうではないことが分かりました。自分が知っている程度の理屈だけで物事を理解しようとしていたのに比べて、母は現象を観察してそのまま話してくれていました、おそらく理屈は知らなかったのかもしれませんが、現象はきちんと把握していたのです。

「疑ってごめん、母ちゃんが正しかったよ！」



○会員情報

正会員【8名】：渡辺次雄（副代表）、須藤春美（会計）、浅野英世（代表）、松田隆司、渡辺雅子、鈴木幸夫、長谷川肇、勝木公雄

賛助会員【1社、7名】

団体・法人：(有)木工房シン（関）

個人：井橋定生（茨城）、加藤勝義（東京）、佐藤克也（茨城）、高口恵子（熊本）、仲間昇（栃木）、浅野美智代（美南）、前野美幸（美南）

シニア2丁目事務局（浅野）

☎ 080 3691 0576

✉ senior2chome@gmail.com

URL <https://newyoshikawa.com>



(2026年6月30日)